

# 京都岡本記念病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の臨床研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

承認番号	2018-15
研究課題名	降下性壊死性縦隔炎の発生と治療法および予後に関する観察研究
研究責任者	【所属】 呼吸器外科 【氏名】 石田 久雄
研究主催機関	【主催機関】 ①大分大学医学部呼吸器・乳腺外科学講座 ②神戸大学大学院外科学講座 呼吸器外科学分野 【代表者】 ①杉尾 賢二 ②真庭 謙昌
研究期間	【開始】 2018/08/31 【終了】 2019/03/31
研究の背景・目的・意義・方法など	降下性壊死性縦隔炎とは、菌原性や口腔内感染症や咽頭膿瘍などの深頸部の感染症が筋膜間隙や気管周囲間隙に沿って、肺の間(縦隔)へ進展する重篤かつ難治性の感染症で、致死率の高い疾患です。それゆえにその診断と治療には緊急を要します。日本胸部外科学会によると、2010年以降、全国で毎年約100例の手術が行われており、30日以内の死亡は1~6.8%と報告されています。死亡率は低下していますが、その詳細については不明な点が多くあります。発生部位と縦隔への進展経路から、その診断と治療には関係するすべての診療科の協力と連携が必要で、複数診療科の連携と科の枠を超えた治療が必要と考えられます。そのため日本気管食道科学会および日本呼吸器外科学会が、その病態、診断に至る経過、治療方法、ドレナージの方法の詳細、予後などについて情報を収集し、治療方法や治療成績の検証を行い、本疾患における発生原因、治療効果予測因子や予後予測因子を解析します。そのうえで、これからの標準治療の確立のための基礎データを構築することを目的に行います。
対象者	2012年1月~2016年12月までに降下性壊死性縦隔炎の治療を受けられた患者さん
試料・情報等の利用目的、利用方法	診療記録(情報:画像診断情報、初発症状、起因菌、感染経路等)を匿名化した後、大分大学医学部呼吸器・乳腺外科学講座のデータセンターに送付されます。
研究に用いる試料・情報の種類	アンケート形式の症例調査票を用いた、多施設共同後ろ向き観察研究
備考	研究代表者:①杉尾賢二 大分大学医学部呼吸器・乳腺外科学講座 教授 ②真庭謙昌 神戸大学大学院外科学講座 呼吸器外科学分野 教授

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報などを研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、京都岡本記念病院 臨床研究センター 臨床研究管理室 までお問い合わせ下さい。

TEL 0774-48-5500

Fax 0774-48-5553